



「ゲリラ豪雨」に注意しましょう

問い合わせ 総務課 ☎2119

局地的に短時間で多量の雨が降ることを「ゲリラ豪雨」と呼んでいますが、「ゲリラ豪雨」とは通称であり、気象庁では、「局地的大雨」と表現しています。

低気圧や前線による雨と違い、この「ゲリラ豪雨」の原因とされる積乱雲は十数分程度という非常に短い間で発生するので、予測は困難とされています。

積乱雲は、日差しで熱せられた、地表の暖かく湿った空気が上昇し、周囲の空気を吸い込みながら垂直に発達していきます。大きさは、縦に十数km・横に数〜十数kmにもなります。上空で冷たい空気に冷やされると、大量の水が蓄えられますが、支えきれなくなったところで一気に大雨になります。

また、竜巻などの激しい突風が発生するおそれがありますので十分注意してください。

これからの時期、キャンプなど野外活動を行う機会が増えてきますが、天気の変化には注意し、携帯電話などで気象情報を確認するようにしましょう。

「ゲリラ豪雨」の原因とさ

れる積乱雲は「大気の状態が不安定」なときに発生しやすいので、これらの言葉を気象情報などで聞いたときは注意をしましょう。

積乱雲が近づいているサインを確認したら避難しましょう

○黒い雲が広がり、急に暗くなる。

○雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。

○冷たい風が急に吹く。

○大粒の雨やひょうが降る。

など

昨年は、市内でも7月4日に立戸で1時間39・5ミリ、栗谷で、49ミリ、また8月24日には、立戸で32・5ミリ、湯舟で50ミリという土砂くずれなどの災害が心配される激しい雨が降りました。野外活動を行うときには、身の安全を確保する計画もたてましょう。

ゲリラ豪雨から身を守るポイント

短時間の雨でも注意

短時間でも多量の雨が降るため、河川や用水路が急激に増水し、危険な状態になります。増水して、溢れた水で道路との境目が分からなくなり、転落する危険や、冠水した道路に車が乗り入れ、走行不能となる危険などがあるので注意してください。

○冠水した道路は避けて避難しましょう。

○マンホールもはずれるところがあるので、日頃から場所を確認しておきましょう。

遠く離れた場所の雨にも注意

自分のいる場所で強い雨が降っていないなくても、上流で降った雨が流れてきて、

危険な状態になることがあります。もし河原付近にいたときは急な増水で流されたり、中洲に取り残される危険があるので、上流での積乱雲の発生を確認したら、ためらうことなく避難してください。



全国海難防止強調運動

問い合わせ 岩国海上保安署 ☎2118

実施期間 7月16日(水)～7月31日(木)

重点事項

- ①見張りの徹底と船舶間のコミュニケーションの促進
 - 常時適切な見張りの徹底
 - 船舶間のコミュニケーションの促進
- ②プレジャーボートの発航前点検の徹底
- ③ライフジャケットの常時着用などの自己救命策の確保